

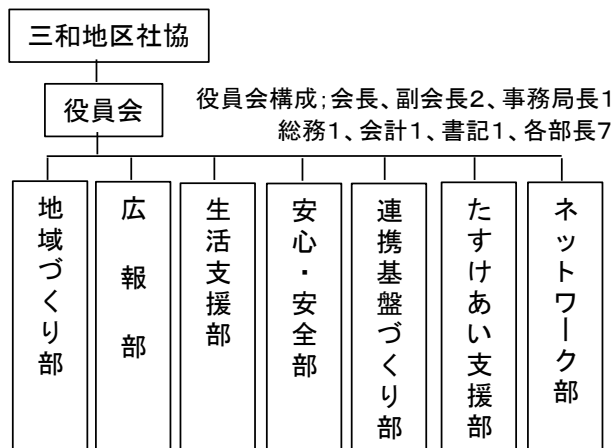
第3号議案 2023年(令和5年)度事業報告の件

◇ はじめに

2023年度、三和地区社協の取組みは、先に制定された市原市第6次行動計画に基づき、三和地区の従来の取組みを見直し、2022年に策定した三和地区第2次行動計画の取組み初年度との位置づけで、この一年、活動して参りました。

三和地区社協は、右図に示すように地区内理事から選出された14名で役員会を構成し、組織的には7部会で運営されています。

それぞれの部には、各理事さんに部員として活動に参加頂く一方、ネットワーク部の傘下には、地区内4つ(養老・市西・海上・光風台)の小域福祉ネットワークが組織され、日々、地域福祉の推進を担って頂いております。



本議案では、2023年度の各部の特徴的な活動をご報告させて頂きたいと思っております。

◇ 地域づくり部

地域づくり部では、23年度、5回の部会を開催して参りました。その中心議題は福祉バザーの取組みをどうするかでした。献品が集まらないと言う過去からの反省に加え、コロナ影響から丸4年間、開催を見送ってきたことから、運営のノウハウも含め、再開は困難との結論に至りました。

＜フリーマーケットの様子＞



しかしながら、地域の一大行事を、ただ単に無くすのではなく、バザーに代わる事業を立ち上げようとの思いから、フリーマーケットの開催に切り替え、その企画・運営計画を部会として進めてきました。

実施日は昨年11月4日5日の二日間、サンコミ祭りを会場に地区社協初めての取組みとして、部員の皆さん・地域の皆さまの、ご協力を頂く中で、成功裏に開催することが出来たと受け止めております。

もう一つの特徴的な取組みとして、(仮称)共生型サロンの取組み促進が挙げられます。

地域への普及促進を目的に市社協の助成金と同額の助成を地区社協としても行うことを役員会で検討・決定しました。



＜うぐいすサロンの参加メンバーの皆さん＞

これに基づき、地区広報紙さわかぜ 第28号・第29号によって地域交流の場の普及促進を呼びかけて参りました。この結果、本年2月より、川在町会(名称;うぐいすサロン)が、また、4月より、山田町会(名称;むつみ会)がスタートし、地域住民相互・ふれあい交流の輪が広がってきています。

その他、詳細取組みは、P.10 の活動報告書を参照頂ければ幸いです。

◇ 広報部

広報部は、2023年度の活動方針に基づき、三和地区社協の活動と地域の皆さまとをつなぐ、に重点を置きつつ、年4回の発行サイクルの中で、その時々々の社協の取組みを地域の皆さまにお伝えして参りました。

各号に於ける主要記事は以下

第28号 →

- 1面 ・地区行動計画の要旨
・地区社協構成団体紹介
- 2面 ・賛助会員募集呼び掛け
・賛助会費の使途紹介
・三和地区人口動態紹介
・回顧録シリーズ②

2023年07月01日 三和地区社会福祉協議会だより 第28号(1面)

発行責任者 三和地区社会福祉協議会 編集責任者 佐川 良晴 編集委員 佐川 良晴 編集委員 佐川 良晴

自らの地域福祉みんなで進めよう

三和地区の基本理念
三和地区の基本目標
三和地区の基本方針

第2次地区行動計画(要旨)

三和地区社会福祉協議会だより

2023年07月01日 三和地区社会福祉協議会だより 第28号(2面)

発行責任者 三和地区社会福祉協議会 編集責任者 佐川 良晴 編集委員 佐川 良晴 編集委員 佐川 良晴

回顧録

三和地区社会福祉協議会だより

2023年09月01日 三和地区社会福祉協議会だより 第29号(1面)

発行責任者 三和地区社会福祉協議会 編集責任者 佐川 良晴 編集委員 佐川 良晴 編集委員 佐川 良晴

それぞれの地域にみなさんで
新たな交流事業をスタートしませんか？

第2次地区行動計画(要旨)

三和地区社会福祉協議会だより

2023年09月01日 三和地区社会福祉協議会だより 第29号(2面)

発行責任者 三和地区社会福祉協議会 編集責任者 佐川 良晴 編集委員 佐川 良晴 編集委員 佐川 良晴

回顧録

三和地区社会福祉協議会だより

← 第29号

- 1面 ・(仮称)共生型サロンの
要旨紹介
・各地区ネットワークのサ
ロンに対する声を紹介
- 2面 ・サロンの取組みに協力
頂けるサークルの紹介
・サークルの代表的な取
組み内容の紹介
・回顧録シリーズ③

第30号 →

- 1面 ・歳末ふれあい福祉の各
地区取組内容紹介
・賛助会員加入の御礼
・千葉県福祉教育プログ
ラムに基づく学校と社
協の連携活動紹介
- 2面 ・三和地区社協初のフリ
ーマーケットの紹介
・回顧録シリーズ④

2023年12月01日 三和地区社会福祉協議会だより 第30号(1面)

発行責任者 三和地区社会福祉協議会 編集責任者 佐川 良晴 編集委員 佐川 良晴 編集委員 佐川 良晴

ふれあい福祉事業の展開

千葉県福祉教育プログラム
学校・小中高校と社協の連携

三和地区社会福祉協議会だより

2023年12月01日 三和地区社会福祉協議会だより 第30号(2面)

発行責任者 三和地区社会福祉協議会 編集責任者 佐川 良晴 編集委員 佐川 良晴 編集委員 佐川 良晴

回顧録

三和地区社会福祉協議会だより



← 第31号

- 1面 ・(仮称)共生型サロンの取組み第1号となった川在町会を取材し、取組みの切っ掛けを紹介
・安心・安全部の研修状況を紹介
・学校と連携した福祉教育の第2弾を紹介
- 2面 ・市西に続き、海上でもスタートした買い物ツアーの取材内容紹介
・たすけあい三和の活動と課題を紹介
・回顧録シリーズ①

三和地区それぞれの地域に、均一な情報展開に努めてきた結果、歳末ふれあい福祉事業では、これまで未展開であった市西地区も、昨年末より取組みがスタートし、三和地区内4地域の足並みを揃える一助になったと考えます。

同様に、これまで光風台地区のみで取組んできた高齢者へのサービス事業、買い物ツアーも、市西地区に続き、海上地区でも始まり、地区内福祉事業の足並みが揃う結果となりました。(養老地区は、移動販売車とデマンドタクシーに取組んでいます)

更には、共生型サロンの取組みも、川在・山田、両町会での取組みがスタートし、広報部として、地区内への情報展開が、こうした取り組みの一助として、一定の役割を担えたものと思っています。

◇ 生活支援部

生活支援部では、地域に於ける諸課題への対応に向けて、二層協議体を年4回開催し、地域の連携・協力に努めてきました。

取り分け、地域ニーズに応える高齢者福祉の一環として、買い物ツアーへの取組みを重点課題に、地区内の社会福祉法人と連携・協力を進め、従前より取組んで来た光風台の事例をベースに、市西・海上と順次、この取組みをスタートさせてきました。(養老地区は移動販売車の利用拡大に努めています)

また、車両・ドライバーを提供頂く地区内3つの社会福祉法人の了解を頂く中で、それぞれのネットワーク名を配した買い物ツアーのマグネット式シートを、運行時に車体に貼り、地域へのPRにも努めてきました。

23年度取組みの足跡は、P.12 の事業報告を参照願います。



＜ 市西地区買い物ツアー ＞



＜ 海上地区買い物ツアー ＞

◇ 安心・安全部



< 11/26日開催の研修会の様子 >

安心・安全部では、年3回の部会を開催する中で、地域の安心・安全に資する課題への論議を進めてきました。

取り分け、災害発生時のボランティア受け入れや、地区としての対応に何が求められるか等、課題への認識を共有する目的から、「災害時ボランティア活動の実情」をテーマとした研修会を開催して参りました。

この研修を契機に、一般ボランティアと受入れスタッフとの識別用ジャケット(メッシュ製チョッキ)を30着常備。災害時のみならず、一般行事においても、スタッフ識別用に活用しております。

また、各ネットワークが主体的に実施しております安全・安心に係る取組みは、P.13 の活動報告にまとめてありますので、参照頂ければ幸いです。

◇ 連携基盤づくり部

連携基盤づくり部の重要な取組みの1つに賛助会員の募集事業があります。

この取組みは、地区社協の活動に賛同頂ける方々に賛助会員として資金的なご支援を頂く取組みです。

23年度では右表のように、個人会員145口団体としてのご協力185口、合計330口のご協力を賜りました。

〔 賛助会員募集事業集計結果(地区別) 〕

	個人会員 口数	町会等 団体口数	合計
市西地区	48	53	101
養老地区	44	51	95
海上地区	10	61	71
光風台地区	43	18	61
地区合計	145	183	328
向日葵(包括ケアセンター)		2	2
総計	145	185	330

※金額換算は口数×1,000 円/1口



< 総勢百余名が参加した光風台小での様子 >

また、地域の連携を強める取組みとして、千葉県福祉教育プログラムに呼応した、市原高校・双葉中学校・光風台小学校と地区社協が連携。

次代を担う子供達と一緒に、昔遊びを伝承する取組みを進めてきました。

具体的には、地区社協が高校生に遊びを指導、これを受けた高校生が中学生を指導。さらに中学生が小学生を指導する順送り方式で、遊びを通した世代間の交流に取組んで参りました。

地域社会と連携した福祉活動の大切さを子供たちが学ぶ機会として、学校側の評価も高く、24年度も是非この取組みを継続したいとの要請を受けております。

したがって、本取組みは24年度も継続したいと考えております。

- ・市原高校実施日→ 2023/09/26
- ・双葉中実施日 → 2023/11/26
- ・光風台小実施日→ 2024/02/28

◇ たすけあい支援部

たすけあい支援部は、地域にお住まいのご高齢者や、体に不自由を抱える方々の生活支援を目的に、「たすけあい三和」の名称の下、有償での生活支援に取り組んでいます。

具体的には、庭木の刈込や除草作業、家具の移動や室内整理、簡単な家事援助など、電話での相談に対応し、現地確認・作業見積・実作業を通した地域サービスを展開しております。

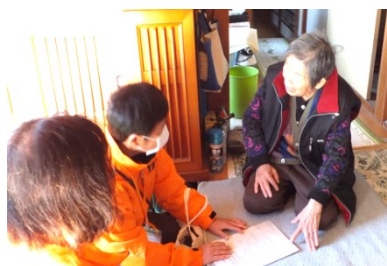
23年度の依頼に基づく実作業件数は315件、これは前年との比較で、135件の増加(1.75倍)になります。一方、こうした依頼の増加に対応するコーディネーターや支援員のマンパワーにも自ずと限界があります。

従いまして、それぞれの地域で住民相互に助け合う、この活動へのご理解と、より一層のご協力を賜りますよう、この場に於いてもお願いを申し上げたいと存じます。

本年度の活動実績詳細につきましては、P.15 の事業報告書を参照頂ければ幸いです。



◇ ネットワーク部



< 全地区が取り組む訪問員活動 >



< 養老 移動販売車の様子 >



< 光風台 丘の上サロンの様子 >



< 海上 登校見守り活動の様子 >

三和地区は、4つの小学校区(市西・養老・海上・光風台)ごとに 小域福祉ネットワークが組織されております。

そして、各ネットワークの連携を進める目的から、各ネットワーク2名の代表者を定め、ネットワーク連絡会を組織しています。

このネットワーク連絡会に於いて、お互いの取組みや活動情報の交流を進め、地域活動の高位平準化に努めて参りました。

23年度の活動成果としては、これまで3ネットワークが取組んでいた歳末ふれあい福祉活動が市西地区でも始まり、4ネットワークの足並みが揃ったこと。

また、買い物ツアーでも、光風台の取組み事例に倣い、市西・海上地区でも、地域の社会福祉法人と連携の下に、買い物ツアーがスタートし、高齢者福祉事業の前進が図られました。

なお、養老地区では、移動販売車の取組みやデマンドタクシー利用普及に取り組んでいます。

なお、各小域福祉ネットワークでは、各小学校と連携した児童福祉や地域福祉、安心生活見守り訪問活動や地域活性化の取組みを事業の柱に、地域に密着した活動を推進しております。

それぞれの活動詳細は、P.16～ P.19 にあります事業報告を参照頂きますようお願いいたします。

取組事業の要旨		23年度計画	23年度実績	計画 & 実績											
推進事業	事業内容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇基本理念→みんながつながる、支え合い・助け合う三和をつくろう ◇基本目標→1)地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり 2)地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり 3)地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり ◇上記、三和地区第二次行動計画の骨子を踏まえた地域づくりを目指し、下記諸施策の推進に努める。		1) 部会の適宜開催に注力し、チームワーク強化に努める。 2) 情宣媒体である「さわかせ」の積極的な活用をはかる。	1) 部会が新メンバーになり部会スタートが遅れた。福祉バザーとフリーマーケット実施の有無で難航し他の事業に支障が生じた。今年度4回の部会を開いたが、今後も部員全員参加で進めて行きた 2) 広報誌「さわかせ」を活用しイベントや事業、取り組みなどを、地域全般に発信して行きたい。	☆計画 ★実績 ☆部会 ・顔合わせ&年間計画打合せ ☆部会 ・福祉バザー概要計画打合せ ☆部会 ・福祉バザー実行計画打合せ ☆部会 ・福祉バザー事業総括 ☆部会 ・年度総括 顔合わせ&年間計画振り返り合わせ 福祉バザーの中止7/26 フリーマーケット開催に向けての計画打ち合わせ8/27 フリーマーケット実行準備に向けての詳細打ち合わせ9/24 フリーマーケット実行打ち合わせ10/22 23年度まとめ2/10											
I.地域福祉事業の推進	・地域組織(各小域福祉NW)との連携を強めた諸施策の前進に努める。	1) 児童福祉の一環として各小域NWと連携した児童登校見守り事業を推進する。 2) 高齢者福祉としての安心生活見守り訪問を継承する。 3) 地域のつながりや助け合いの気運醸成と福祉財源の確保を目的に福祉バザーを継承する。	1) 地域福祉の取組みは各ネットワーク部が主体的に取り組んで頂いている。連携が必要な点は、部としても協調して行きたい。 2) 見守り訪問についても同様だが、相談支援の側面からも情報連携を進めて行きたい。 3) 福祉バザーの代わりに歳末助け合い募金を実施した。 4) 初めての試みとして、フリーマーケットに取組んだ。反省点もあるが次回につながる実績ができた。	←----- 登校見守り/各ネットワークとの情報連携 -----→ ←----- 高齢者見守り/各ネットワークとの情報連携 -----→ 計画 ↔ 実績 ↔ 歳末助け合い募金 ↔ ←----- フリーマーケット準備 ↔ 11/4・5開催 -----→  【初開催の地区社協フリーマーケット】											
II.コミュニティづくり支援事業	・地域住民相互のつながりや支え合いのすけあうコミュニティづくりを目指す取組みを支援。	1) 本年4月スタートとなる共生型サロンへの取組みを積極的に支援していく。 2) 子供の居場所づくりに対し、地域の諸事情を踏まえた取組みが展開できるよう支援していく。	1) 共生型サロンの普及に向け、市社協と同額を三和地区社協としても助成することを役員会で決議。 2) 本年2月より川在町会が月1回サイクルでサロン(名称うぐいすサロン)を開催。地区社協として助成体制整備にも取り組んだ。 3) このサロンには参加年齢等の制限はなく、幅広い層を対象にした地域交流の場として、今後も普及を目指します。(子供の居場所にも一役)	←----- 共生型サロン普及促進 -----→ 計画 ↔ 実績  【川在町会「名称うぐいすサロン」参加者の皆さん】 ←----- 子供の居場所づくり/地域ニーズおよび展開の可能性検討 -----→ ↔ 川在町会・共生型サロン 毎月1回の開催を2月～スタート!											
III.子育て世代支援事業	・子育て世帯減少の地域特性を踏まえ、対象層を地域から地区へと広げつつ、参加者の拡大と参加者同士のつながり(連帯)を強める。	1) 子育て世代を対象とした子育てサロンを事業として継承する。 2) 対象層の利用拡大へ向け、PRの拡大、活動内容の充実に努める。	1) 年10回、計画通り子育てサロンを運営・開催して参りました。 2) 子育て世代の様々な相談にも積極的な対応に努めて頂きました。 3) 相談・支援については、ケースByケースに応じ、適切な相談機関につなぎ、問題解消に努めます。	☆4/24 No1サロン ☆5/22 No2サロン ☆6/26 No3サロン ☆7/24 No4サロン ☆9/25 No5サロン ☆10/23 No6サロン ☆11/27 No7サロン ☆12/18 No8サロン ☆2/26 No9サロン ☆3/18 No10サロン ☆ 計画 ↔ 実績 ←----- 年10回の定期開催(計画通り)に実施 -----→											

2023 年度 事業 報告 (広 報 部)

取 組 事 業 の 要 旨		23年度計画	23年度実績	計 画 & 実 績 (見 え る 化)											
推 進 事 業	事 業 内 容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇三和地区社協広報紙 「さわかせ」の編集・発行	1) 地区社協の動向を紙面を通じ地域住民に周知する。 2) 紙面を通じ、地域福祉活動への理解と共感を深める。 3) 話題性を高め、地域の主体的な自助努力の醸成を目指す。	1) 従来通り年4回の発行を継続する(6・9・12・3月) 2) 編集会議適宜開催し、発行時期に合わせたタイムリーな企画・記事とする。 3) 地域に出向いた取材に重きを置き、実情を重視する。	計画 ⇨ 実績 ⇨ ＜各号発行内容は以下＞	☆=計画 ★=実績			☆28号 発行 予定		☆29号 発行 予定			☆30号 発行 予定			☆31号 発行 予定
		第28号	・1面→*第2次三和地区行動計画要約紹介 *三和地区社協構成紹介 ・2面→*賛助会員募集記事 *三和地区人口動態調査結果啓蒙 *回顧録シリーズ②		◇編集会議	◇校正・入稿	◇配付仕分け								
		第29号	・1面→*第2次三和地区行動共生型サロン取組み奨励特集 ・2面→*サロン支援サークル紹介 *回顧録シリーズ③				◇編集会議	◇校正・入稿	◇配付仕分け						
		第30号	・1面→*賛助会員加入御礼 *歳末ふれあい福祉4地区取組み紹介 *県福祉教育の取組み紹介 ・2面→*買い物ツアー市西の取組み紹介 *新事業フリーマーケット紹介 *回顧録シリーズ④							◇編集会議	◇校正・入稿	◇配付仕分け			
		第31号	・1面→*サロン(川在町会)の事例紹介 *防災ボランティア研修紹介 *県福祉教育の取組み紹介 ・2面→*買い物ツアー海上の取組み紹介 * *第6弾回顧録シリーズ①										◇編集会議	◇校正・入稿	◇配付仕分け

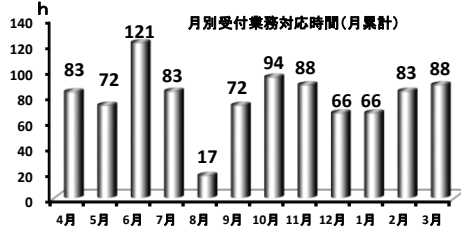
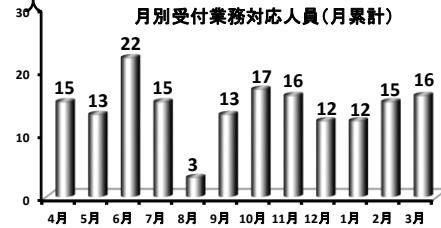
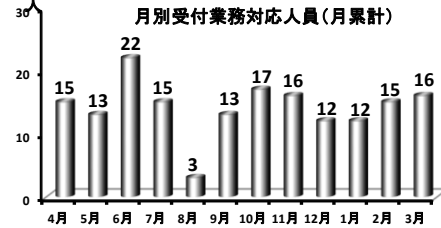
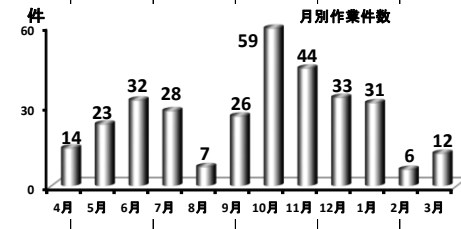
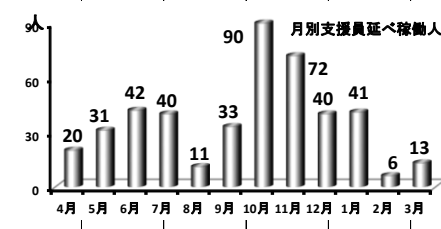
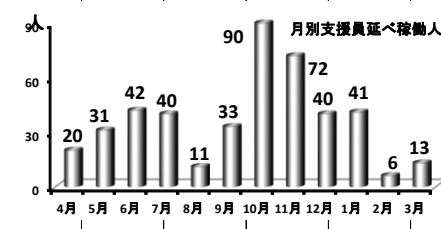
取組事業の要旨		23年度計画	23年度実績	計画 & 実績											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇基本理念→みんながつながる、支え合い・助け合う三和をつくろう ◇基本目標→ 1) 地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり 2) 地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり 3) 地域で安心して暮らすための基盤づくり ◇上記、三和地区第二次行動計画の骨子を踏まえた地域づくりを目指し、取り分け2) 項の「地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり」に重点を置き、下記の取り組みを推進する。		1) 諸課題への対応を検討する目的の下、第2層協議体を開催する。 2) 協議体は年4回の開催を計画する。	諸課題への対応を検討する、第2層協議体を年4回実施 協議体は買物ツアーモデル地区の光風台を元に他地区への拡大を図り検討を実施	☆計画 ★実績		☆ 第1回協議体 ★6/29 第1回協議体		☆ 第2回協議体 ★9/28 第2回協議体		☆ 第3回協議体 ★12/14 第3回協議体		☆ 第4回協議体 ★2/29 第4回協議体			
									★10/24 市第2層協議体 フォローアップ研修		★1/23 市第2層協議体 フォローアップ研修				
I. 高齢者地域支え合い事業	* 高齢者の生活を支える体制の強化として、生活支援コーディネータと連携し、生活上の課題やニーズを掌握する。 * 抽出された課題やニーズは、適切な生活支援サービスへとつなぐマッチングを図る。その上で、残る課題は新たな対応を探索する。	① 買い物ツアー実施地区 1) 今後の事業推進に向けた業務の検討により、更なる内容充実に努める。 2) ツアー利用者を通じ、地域の生活課題の収集に努める。	光風台地区において買物ツアー利用者増加に伴い、月2回、1回あたり3便で対応実施			★検討		★検討		★検討		★検討			
				← 買い物ツアーにおける生活課題の把握 ☆4～3月(適宜) →											
		② 買い物ツアー拡大対象地区 1) ツアー取組地区の拡大検討(市西・養老・海上の各地区) 2) 各ネットワークとの調整(参加希望者の取りまとめ等) 3) 協力施設(地区社会福祉法人)との調整(先行や日程等)	*市西地区 社会福祉法人あじさい苑と協力体制構築10月より開始 *海上地区 社会福祉法人グリーンライフネクステと協力体制構築24年2月より開始 *運用開始に伴い、添乗員の調整など新たな負担が問題と浮かび上がった			★ ニーズの把握	★ 試行に向け 協力施設と検討	★ 試行の開始	月1回				本格運行 に向けた検討		
		③ 移動販売車取組みの継承 1) 取組地区の拡大検討(光風台・養老の各地区) 2) 未実施地区の取組み検討(市西・海上の各地区) 3) 各ネットワークとの調整(参加希望者の取りまとめ等)	*諸課題への対応を検討する、第2層協議体を年4回実施 *移動販売による利用者拡大と運用を把握しながら新たな販売場所などニーズの調整を図る *養老地区ではデマンド型タクシー利用者のニーズ調整を図る			★検討	★検討		★検討		★検討		★検討		
				← ☆4～3月 毎週水曜日実施 (4町会7カ所で販売) →											
II. 相談支援事業	* 地域関係団体が普段取組んでいる活動と連携し、地域住民の困りごとを早期に把握。ケース会議等を通じ、適切な支援につなげる。 * その後、ゆるやかに見守る地域全体としての体制構築と、その推進に努める。 * 地域住民が気軽に相談できる場として、地区社協事業内で身近な相談を受け付ける。 * また、相談内容によって、専門機関等につなげ、問題の解消に努める。	1) 地区全体の相談体制図を踏まえ、地域関係団体・専門機関等と共通理解の徹底を図る。 2) ケース会議の設置・推進に向け、地域関係団体及び地区福祉総合相談センターとの連携体制の強化を図る。	1) 各ネットワークや関係団体との連携を図り共通認識とした 2) 地域関係団体とケース会議の設置を行いながら連携強化を図った	← ★4～9月事業周知・体制構築 →											
				← ★4～3月 ケース会議の設置・運営(適宜) →											
		1) 子育てサロン事業に相談支援機能を付加し、子育て家庭の身近な相談場所としていく。 2) 相談内容に応じ、専門職や専門機関と連携した細やかな対応に努める。	1) 子育てサロン実施時に相談支援事業を実施した 2) 相談内容に応じ、専門職や専門機関と連携した	☆ 4/24 ★ 4/24	☆ 5/22 ★ 5/22	☆ 6/26 ★ 6/26	☆ 7/24 ★ 7/24		☆ 9/25 ★ 9/25	☆ 10/23 ★ 10/23	☆ 11/27 ★ 11/27	☆ 12/18 ★ 12/18	☆ 2/26 ★ 2/26	☆ 3/18 ★ 3/18	
★年10回実施(8月・1月を除く)															

2023 年度 事業報告（安心・安全部）

取組事業の要旨		23年度計画	23年度実績	計画 & 実績											
推進事業	事業内容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇ 基本目標→みんなが安心・安全に暮らせる地域づくり 1) 地域住民の緊急時の対応体制の構築 (緊急時連絡カードの配布・更新) 2) 子供の安全・安心を守る活動の推進 (登下校の児童見守り・あいさつ・声掛け運動) 3) 地域の安全を守る活動の推進 (危険箇所の点検と改善、防犯パトロール) 4) 災害時のたすけあい活動の意識啓もう啓発、災害に強い地域づくり(災害支援ボランティア事業)		1) 市内各地協の取組み情報の収集(市社協との連携)をはかり、三和地区活動の向上に努める。 2) 部会の定期開催に注力し、地域の声を安心・安全部の活動に取込む。 3) 地域の防災意識の高揚を目指し、町会長会と連携した合同防災研修会を企画する。	1) 本年度は災害時対応の在り方に重点を置き、研修を企画・実施に取り組んだ。 2) 部員(担当理事)との情報連携や地域の声を活動に活かすことを目的に3回の部会を開催した。 3) 町会長会との連携は今後の課題として行きたい。	☆計画 ☆実績 ☆部会 ☆部会 ★7/15部会											
I. 地域の安心・安全を守る事業	1) 医療緊急時連絡カードの地区内全戸配布・更新を進める。 2) 高齢者宅への定期訪問活動を通じ、安心して生活できる地域づくりを進める。 3) 地域内の危険箇所等の点検活動を通じ、その改善に努める。	・2022年度に策定された三和地区行動計画に沿って、左記事業は各ネットワークの主体的な取組みとして定着するに至っている。 ・したがって、安心安全部の機能としては、各ネットワークおよび安全施策に係わる団体との連携を主体とし、地区全体としての取組み状況をまとめることで、各活動の継続的な推進に努めるものとする。	I-1) 医療緊急カード更新実績 ・養 老 NW → 83 戸 ・市 西 NW → 56 戸 ・海 上 NW → 407 戸 * 三地区計 → 603 戸 ・光風台NW → 全世帯配布 I-2) 見守り訪問延べ戸数/年 ・養 老 NW → 352 戸 ・市 西 NW → 634 戸 ・海 上 NW → 322 戸 * 三地区計 → 1,308戸 I-3) 地域内危険箇所点検 ・未達となった。	<医療緊急時連絡カード更新> 更新時期は異なるものの各ネットワーク単位で事業展開 養老地区83戸更新 市西地区56戸更新 海上地区407戸更新 <安心生活見守り事業> 各ネットワーク単位で1～2回/月の見守り訪問事業を展開 養老地区 / 年間見守り訪問延べ回数 352 回 市西地区 / 年間見守り訪問延べ回数 634 回 海上地区 / 年間見守り訪問延べ回数 322回 ★三地区計 訪問数 1,308回/延べ <児童登下校見守り事業> 各ネットワーク単位で各月次の登校見守り事業を展開 養老地区 / 年間児童登校見守り延べ回数 394 回 市西地区 / 年間児童登校見守り延べ回数 1,831 回 海上地区 / 年間児童登校見守り延べ回数 17 回 光風台地区 / 年間児童登校見守り・登下校全日											
II. 子供の安全を守る事業	1) 児童の安全確保を目的に・登下校時の見守り活動に取り組む。 2) 防犯パトロール展開により、児童の安全確保に努める。		II-1) 児童登校見守り事業 ・養 老 NW→ 371 回/延 ・市 西 NW→ 2,025回/延 ・海 上 NW→ 25 日/延 三地区計 2,421 ・光風台NW→登下校全日 II-2) 防犯パトロール ・光風台地区を重点に活動頂いた。												
III. 災害支援ボランティア事業	・災害時のたすけあい活動へ向けて、防災意識の啓発を目的とした学習活動を進める。	・地域防災の観点から町会長会との連携に基づき、地域防災研修を企画し、取組むこととする。	III. 防災支援ボランティア事業 1) 市都市に於ける災害実例に基づく、具体的な対応状況を学ぶ 研修を企画・実施した。 2) この研修をベースに、三和地区としての災害対応のあり方が今後の課題となる。 3) その一環として各地域(町会)の災害への備え等、実情や啓蒙活動も課題としたい。	<災害ボランティア事業(研修会)実施> ☆合同研修 ★社協 Staff 識別ジャケット常備 災害時対応として、社協スタッフ識別ジャケットを常備した。一般事業でも社協PRとして使用。 ★11/26 社協理事研修実施 さわかぜ31号(3/1発行)にて研修実施状況報告 ★											

2023 年度 事業報告（連携基盤づくり部）

取組事業の要旨		23年度計画	23年度実績	計画 & 実績											
推進事業	事業内容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇基本目標→地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり 1) 地域の特性に即した福祉活動を推進するための地区行動計画の具現化（地区行動計画推進） 2) 地域を支える担い手の発掘・育成 （人材育成事業・福祉教育推進事業・地域講演会の開催） 3) 活動財源確保に向けた取組み強化（賛助会員拡充等）		1) 地域の声を地区社協の施策へ反映させる目的の下に、部会としての機能を最大化する。 2) 部会の定期開催に努め、連携の基盤づくりを進める。 3) 第2次三和地区行動計画に基づく地域の連携を強める諸施策の推進に努める。	●部会が未開催となったことは、反省点である。 ●その背景として、賛助会員募集事業の取組みの他、新たに県社協が推進する福祉教育推進事業を学校（小・中・高）と連携し、企画・実施に取り組むことを優先せざるを得なかった。	☆部会 ☆ショート部会 ・会員募集日程 ・依頼文書作成 ・集計方法確認 ・全体ロードマップ ・必要事項確認 ☆9/a部会 ・賛助会費集計結果のまとめ ・その他 ☆部会 ・情報連携 ・その他 ☆＝計画、★＝実績 ☆部会 年度総括											
1) 地区行動計画の推進	・前年度(22年度3月)末に策定された第二次三和地区行動計画に織り込まれた諸施策を推進する上での地域や諸団体との連携を強める基盤を整備する。	1) あらゆる機会を捉えて地区行動計画の周知に努める。 2) 広報部と連携した地区社協の取組みを、解かり易い形で各家庭までPRし、地域住民の自発的行動を喚起する。 3) 4地区小域福祉ネットワーク連絡会との連携を深め、行動計画の前進に向けた協力基盤づくりに努める。	●第二次三和地区行動計画のスタート年度にあたり、理事会にて理事全員に行動計画を配布し、普及に努めた。 ●引き続き、広報紙さらかぜ28号(7/1発行)1面に行動計画の要旨を掲載し、地区内周知に努めた。 ●同様に29号にて共生型サロンの取組促進記事を配信した。	☆5/27 理事会 行動計画冊子 配布予定 ★5/27 理事会 行動計画冊子 配布 ☆期間いずれかで広報PR ☆小域福祉NW連絡会との情報連携 ★さわかぜ28号 1面・第二次行動計 要旨紹介 2面・賛助会員募集 趣旨 ★さわかぜ29号 1面・共生型サロン 取組促進特集 2面・サロン支援 サークル紹介											
2) 地域を支える担い手の発掘・育成	・住民参加型事業の企画・実践を通した活動意義の啓蒙を進め、次代を担う人材の育成につなげる。	1) 市社協主催の担い手講座等学習機会を最大限活用できる基盤の構築に尽力する。 2) 前年度同様に、地域福祉教育（小・中・高/若年層）へのアプローチを、各学校代表と連携を強めつつ、次代を担う人材育成に取組む。	●福祉教育推進事業として高校生による子育てに関するボランティア活動の支援に取組み、絵本の読み聞かせや子供との遊びを通じ地域課題の理解と世代間交流を図った。 ●県社協が推進する福祉教育の取組みを地域の学校（光風小・双葉中・市原高校）と連携し、昔遊びの伝承をリレー方式で実施した。取組みを通じ世代間交流や教	☆市社協担い手養成講座等へ合わせた人材育成 ☆地域福祉教育（光風台小・双葉中・市原高校）と連携した事業推進 ★6/1福祉教育推進会 ★7/26・ ★8/4・8・ ★8/22 県社協福祉教 ★9/26市原高校で福祉教育 ★10/18推進会 福祉教育推進(事業(高校生のボランティア ★1/16双葉中学校で福祉教 ★2/28光風台小学校で福祉											
3) 活動財源確保に向けた取組み強化（賛助会員募集の取組み）	・自主財源を確保し、三和地区の主体的な地域福祉活動の充実をはかる。	・少子高齢化率の高い三和地区の地域特性に見合う地区独自の福祉施策の前進に向けた自主財源の確保、および社協理事と地域住民との顔をつなぐ活動の一環として、賛助会員募集拡大に努める。	●地域福祉活動への地域の理解と協力が得られるよう賛助会員募集事業に取り組んだことで、自主財源確保にも繋がった。 ●結果は、個人145口、団体185口合計330口(金額にして330,000円)のご協力を頂いた。広報紙さらかぜ30号に結果報告と併せお礼文書を掲載した。	★4/20役員会にて取組み概要説明 ★5/18役員会にて取組み実施要領確認 ★6/24理事会にて取組み要請 7/1 ★6/25 町会長宛て協力要請書発送 8/31 会員募集期間 ★8/6一次集金日 ★9/3二次集金日 9/3→9/15 集計期間 ★9/17役員会集計結果報告 ★さわかぜ30号に集計結果と礼文を掲載											

取組事業の主旨		23年度計画	23年度実績	計 画 & 実 績																																																																															
推 進 事 業	事 業 内 容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																				
◇現行三和地区行動計画基本理念 『みんながつながる、支え合い・助け合う三和をつくろう』 ＜基本理念に基づき下記を推進事業の柱とした活動を推進＞ ◇公的サービスではまかないきれない日常生活上の生活課題を解決するために、有償による住民相互のたすけあい運動に取組み、住民参加型の地域福祉活動を推進する。		1) 具体的取組みを推進するため部会を基軸とする。 2) 市内各地協の取組状況を部会・役員会へ反映し、活動の質的向上に努める。	1) 情報共有し意思疎通を図るため4回/年の部会開催に取組んだ。 2) 9月にコーディネーター会議を開催し円滑な支援活動の推進に努めた。 3) 他地区の日常生活支援活動情報をもとに当番活動の在り方を再検討してみたい。	☆ 計画 ★ 実績			☆部会 ★6/14部会		☆部会 ★9/13 コーディネーター会議	☆部会					☆部会 ★3/13部会																																																																				
		I. たすけあい支援部員当番制による受付業務の継承	1) 登録部員13名中、11名で受付シフトを組み、月・水・金の9時～14時半での受付業務に対応した。(169名/年/延べ人員) 2) 受付業務対応時間は年間929.5時間(対前年143.0時間減)となった。	 <table border="1"><caption>月別受付業務対応時間(月累計)</caption><thead><tr><th>月</th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr></thead><tbody><tr><td>時間</td><td>83</td><td>72</td><td>121</td><td>83</td><td>17</td><td>72</td><td>94</td><td>88</td><td>66</td><td>66</td><td>83</td><td>88</td></tr></tbody></table>  <table border="1"><caption>月別受付業務対応人員(月累計)</caption><thead><tr><th>月</th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr></thead><tbody><tr><td>人員</td><td>15</td><td>13</td><td>22</td><td>15</td><td>3</td><td>13</td><td>17</td><td>16</td><td>12</td><td>12</td><td>15</td><td>16</td></tr></tbody></table>	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時間	83	72	121	83	17	72	94	88	66	66	83	88	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	人員	15	13	22	15	3	13	17	16	12	12	15	16	 <table border="1"><caption>月別受付業務対応人員(月累計)</caption><thead><tr><th>月</th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr></thead><tbody><tr><td>人員</td><td>15</td><td>13</td><td>22</td><td>15</td><td>3</td><td>13</td><td>17</td><td>16</td><td>12</td><td>12</td><td>15</td><td>16</td></tr></tbody></table>	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	人員	15	13	22	15	3	13	17	16	12	12	15	16
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																							
時間	83	72	121	83	17	72	94	88	66	66	83	88																																																																							
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																							
人員	15	13	22	15	3	13	17	16	12	12	15	16																																																																							
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																							
人員	15	13	22	15	3	13	17	16	12	12	15	16																																																																							
		II. 『つなぐ』を基調に住民依頼を各コーディネータと調整する。 * コーディネータ不足を課題に対策を検討する。	1) 23年度依頼に基づく作業件数(コーディネイト件数)は、315件(対前年135件増)と大幅に増加した。 今後、コーディネーターの増員が課題となる。 2) 支援員(現在33名)の年間稼働人員累計は439人。月均等人員は36.58人が稼働。	 <table border="1"><caption>月別作業件数</caption><thead><tr><th>月</th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr></thead><tbody><tr><td>件</td><td>14</td><td>23</td><td>32</td><td>28</td><td>7</td><td>26</td><td>59</td><td>44</td><td>33</td><td>31</td><td>6</td><td>12</td></tr></tbody></table>  <table border="1"><caption>月別支援員延べ稼働人員</caption><thead><tr><th>月</th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr></thead><tbody><tr><td>人員</td><td>20</td><td>31</td><td>42</td><td>40</td><td>11</td><td>33</td><td>90</td><td>72</td><td>40</td><td>41</td><td>6</td><td>13</td></tr></tbody></table>	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	件	14	23	32	28	7	26	59	44	33	31	6	12	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	人員	20	31	42	40	11	33	90	72	40	41	6	13	 <table border="1"><caption>月別支援員延べ稼働人員</caption><thead><tr><th>月</th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr></thead><tbody><tr><td>人員</td><td>20</td><td>31</td><td>42</td><td>40</td><td>11</td><td>33</td><td>90</td><td>72</td><td>40</td><td>41</td><td>6</td><td>13</td></tr></tbody></table>	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	人員	20	31	42	40	11	33	90	72	40	41	6	13
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																							
件	14	23	32	28	7	26	59	44	33	31	6	12																																																																							
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																							
人員	20	31	42	40	11	33	90	72	40	41	6	13																																																																							
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																							
人員	20	31	42	40	11	33	90	72	40	41	6	13																																																																							
		III. 依頼内容の分析に基づく今後の対応課題を整理する。 * 支援会員募集のPRを広報部と連携する。 * 制度利用者拡大に向けたPRを広報部と連携する。	1) 利用会員217名(対前年25名増)となり利用者は着実に増加。今後は、利用条件の精査も必要と思われる。 2) 積極的な担い手拡大PRで、コーディネーター(前年4名→本年7名)、支援会員(前年28名→本年33名)と微増。更なる増員も課題が残る。	<table border="1"><caption><地区別利用会員・支援会員・作業件数一覧></caption><thead><tr><th></th><th>市西</th><th>養老</th><th>海上</th><th>光風台</th><th>地区計</th></tr></thead><tbody><tr><td>利用会員数</td><td>52</td><td>33</td><td>15</td><td>117</td><td>217</td></tr><tr><td>支援会員数</td><td>7</td><td>6</td><td>8</td><td>12</td><td>33</td></tr><tr><td>作業件数</td><td>77</td><td>26</td><td>16</td><td>196</td><td>315</td></tr></tbody></table> <table border="1"><caption><地区別支援会員の变化>() コーディネータ数 ※内数</caption><thead><tr><th></th><th>市西</th><th>養老</th><th>海上</th><th>光風台</th><th>計</th></tr></thead><tbody><tr><td>令和4年度</td><td>8(1)</td><td>4(1)</td><td>6(1)</td><td>11(1)</td><td>29(4)</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>7(1)</td><td>6(2)</td><td>8(1)</td><td>12(3)</td><td>33(7)</td></tr></tbody></table>		市西	養老	海上	光風台	地区計	利用会員数	52	33	15	117	217	支援会員数	7	6	8	12	33	作業件数	77	26	16	196	315		市西	養老	海上	光風台	計	令和4年度	8(1)	4(1)	6(1)	11(1)	29(4)	令和5年度	7(1)	6(2)	8(1)	12(3)	33(7)	広報紙さわかぜにてたすけあい三和の活動状況報告及び支援員募集を行った。 ★10月 ★3月																																				
	市西	養老	海上	光風台	地区計																																																																														
利用会員数	52	33	15	117	217																																																																														
支援会員数	7	6	8	12	33																																																																														
作業件数	77	26	16	196	315																																																																														
	市西	養老	海上	光風台	計																																																																														
令和4年度	8(1)	4(1)	6(1)	11(1)	29(4)																																																																														
令和5年度	7(1)	6(2)	8(1)	12(3)	33(7)																																																																														
		IV. 市原市第6次地域福祉活動計画及び第2次三和地区行動計画に即し、地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり(共創)実現に向けた取組みを推進する。	1) 現支援活動の検証を基に新たな支援活動の可能性について検討した。 2) 活動の継続性に重きをおき、支援会員の増員を図ったが、引き続き人材育成を進めたい。 3) 地域で孤立しない取組みのPRに努めた。	10/21養老小域福祉NW定例会議に参加し「たすけあい三和」の活動内容の説明及びコーディネータ・支援員募集のお願いをした。 1/15、市社協主催の研修会(日常生活支援事業交流会)に参加し「たすけあい三和」の活動状況を報告した。 ★1/15 市社協研修参加																																																																															

2023 年度 事業報告（市西小域福祉ネットワーク）

取組事業の要旨		23年度計画	23年度実績	計 画 & 実 績											
推 進 事 業	事 業 内 容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇ネットワークを構成する地区13町会と連携し、小域圏における地域福祉事業を促進する ◇具体的な地域福祉事業は、児童・高齢者の見守り活動を基軸とし、以下、4点を事業の枢軸とする	1)地域住民への福祉に資する諸施策の企画・立案・推進 2)小域圏である市西小学校と連携した児童福祉対策推進 3)高齢者の健康寿命促進を念頭に、福祉サービスの提供とその質的向上を目指す	1)各事業の推進に向け、以下の会議体運営する。 ①役員会(適宜開催) ②推進委員会(適宜開催) ③町会長会議(適宜開催) ④ネットワーク協力員会議(1回/年の開催を計画)	①役員会6回/年開催 ②推進委員会4回/年開催 ③町会長会議・12/17開催 ④ネットワーク協力員会議7/23開催	☆役員会 ★4/22 役員会	☆役員会 ★5/14 役員会	☆役員会 ★6/18 役員会			★9/17 役員会	☆役員会 ★11/18 役員会		☆役員会	☆役員会	☆役員会 ★3/18 役員会	
					☆推進委員会 ★5/28推進委員会				☆推進委員会 ★10/27推進委員会	☆推進委員会 ★12/17推進委員会	☆推進委員会 3/17推進委員会	☆推進委員会 ★12/17町会長会議			
				☆＝計画 ★＝実績			☆ネットワーク協力員会議 ★7/23ネットワーク協力員会議								
I.児童福祉事業	◇学区である市西小学校と連携した児童福祉施策の推進。	1)児童登下校時見守り活動 ＊児童登下校時、挨拶運動と併せた見守り活動を実施 2)学校・PTAと連携した環境美化作業の取組み 3)学校行事と連携した児童福祉教育の促進 4)千葉県福祉教育の推進	1)児童登下校時見守り活動 ・登校時声掛け延べ1,202人/年 ・下校時声掛け延べ 823人/年 2)2回/年の学校環境美化作業に取り組んだ。 3)小野山ゴロゴロ回は中止 4)市西小にて伝承遊び実施 PTA協力バザーは中止となった。	☆見守り	年間を通した登下校時の見守り・声掛け活動										☆見守り
					アイリンブループロジェクト推進・伝承遊びの推進 ☆奉仕除草作業 ☆奉仕除草作業 ★5/13 奉仕除草実施 ★8/25 奉仕除草実施 ☆小野山ゴロゴロ会(ちゅうめん流し) ★中止 ☆伝承遊び ★10/18伝承遊び実施 ☆ PTA協力事業バザー(中止)										
II.地域福祉事業	◇緊急時連絡カードの常備推進	1)常備状況の点検・確認 2)不足カードの補充	1)緊急時連絡カードの保管状況並びに過不足の点検活動を実施。 2)点検活動結果 13町会中 6町会からの申請に基づき、下記を更新した。 ・カード更新配布数 56 ・保管用筒 17 ・表示ステッカー 22		更新計画期間 更新展開実施										
Ⅲ.高齢者福祉事業	◇安心生活見守り訪問制度の推進	1)新規見守り訪問員認定講習 2)見守り訪問活動の進捗管理 3)訪問員フォローアップ研修の企画・実践 4)新規事業・歳末福祉事業の企画・実践	1)新任訪問員(6名)認定講習実施 2)見守り訪問活動を継続し実施した。本年度の取組み状況は以下 ・訪問員数 19名 ・訪問対象者数 43名 ・延べ訪問回数 634回 3)訪問員フォローアップ研修実施 4)歳末福祉事業の一環として、訪問活動を兼ねて非常時支援グッズの配布に取り組んだ。	☆認定講習 ★5/7・新任訪問員(6名)認定講習	各町会訪問員単位で月1～2回の見守りを計画										☆訪問員フォローアップ研修 3/17 フォローアップ研修★
				☆見守り訪問	訪問対象者43名・延べ訪問回数634回/年										☆見守り訪問
				〔課題と今後の方向性〕 高齢化の更なる進展を踏まえるならば、見守り訪問希望者の増加が見込まれる。したがって、訪問員の育成・拡充に努めて行きたい。										★歳末ふれあい福祉事業実施 10町会 37世帯対象	
IV.地域活性化事業	◇町会単位の「通いの場」を地域の絆を強める取組みと位置付け継続と質的向上を目指す ◇地域の声を傾聴し、新たな地域ニーズに応える事業計画の創成に努める	1)町会単位の通いの場を継続開催し、地域の絆を深める 2)前年度の調査結果(買い物支援ニーズ)に応え、具体的な検討に取組む	1)三和地区行動計画に基づく新たな地域交流事業(共生型サロン)の呼びかけに取り組んだが、有効に至らなかった。 2)見守り訪問ヒヤリングの結果、買い物支援の希望を受け、買い物ツアーの実践に取り組んだ。 ・地域の社会福祉法人「あじさい苑」の車両・ドライバーの提供協力を得て、4町会 5名(利用希望者)を対象とした高齢者福祉サービスをスタートさせた。	☆	地域に於ける交流の活性化・絆の強化を図る取組み検討										☆
				★	共生型サロンへの助成制度等広報活動に努めた										★
				買い物支援施策の具体的検討											
															
				毎月1回、4町会5名を対象に買い物ツアーをスタート											
				〔課題と今後の方向性〕 参加希望者の増加に備え、運行サイクルの柔軟な対応等、検討を進めて行きたい。											

取組事業の要旨		23年度計画	23年度実績	計画 & 実績											
推進事業	事業内容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇海上小学校区小域福祉ネットワークとして8町会の連携強化の下、小域圏に於ける地域福祉施策の前進 ◇具体的な地域福祉施策として、以下の4点を事業の柱とする	1) 地域住民への福祉に資する諸施策の企画・立案・推進 2) 学区である海上小学校と連携した児童福祉施策の推進 3) 高齢者への福祉サービスの提供と健康寿命の伸長を目指す	1)各事業の推進に向け、以下の会議を運営する ①推進委員会（2回/年） ②委員会（適宣） ③町会長・民生委員会議（必要に応じ都度開催） ④関係団体との連携	・会議開催は計画通り実施済 ★会議実施	★4/23No1推進委員会 ★4/6三役会議				★8/10広報誌提示 ★7/9No1町会長・民生委員会議		★10/22No2推進委員会 ★10/1No2町会長・民生委員会議 ★9/20市原市小域NW連絡会議 ★9/28三和地区小域NW連絡会議	★12/10見守り訪問員フォローアップ研修		★2/25No3町会長・民生委員会議	☆3/24会計監査	
I.児童福祉事業	◇学区である海上小学校と連携した児童福祉施策の推進	1) 児童登校見守り 毎月第1,3水曜及び夏季・冬季・春季休明け初登校日学校登校指導日に併せ実施 2) 学校・PTAと連携した環境美化作業の取組み。3回/年 3) 小学校資源ゴミ回収協業2回/年	・登校時見守り 25回/年度 ・美化作業 3回/年度 5月、8月、2月実施 ・資源回収 2回/年度 7月、1月実施	登校時見守り ★4/6,7,12,13 ★5/8,17 ★5/6環境美化 ★5/27運動会 ★6/9海上小学校評議員会 ★4/11入学式		★6/7,21	8月休み中止	★9/14,5 ★8/26環境美化 ★7/15資源回収		★10/4,18 ★11/1,15	★12/6,20		★2/7,21 ★2/17環境美化 ★1/20資源回収 ★2/3海上小評議員会卒業式	☆3/6 ★3/15	
II.地域福祉事業	◇医療・緊急カードの常備推進 ◇ネットワーク事業内容を周知協力体制を構築する	1) 常備状況の点検・確認 2) 不足カードの補充 3) ネットワーク広報誌を作成配布し理解を深める	・緊急時連絡カード配布 海上地区全世帯に実施 緊急カード広報誌 43部 記入カード 407枚 保管筒＆ステッカー8セット ・海上地区ネットワーク広報誌を作成、全世帯（407部）配布実施				★7/9No1町会長・民生委員会議 ★8月中に周知用広報紙とカードを配布 ★希望者へ記入カード及び保管筒とステッカー不足分配布 ★8/26海上地区ネットワーク広報誌を作成、印刷 各町会の全世帯配布。小学校美化作業時に希望者のみ配布	進め方協議							
III.高齢者福祉事業	◇安心生活見守り訪問制度の遂行	1) 見守り訪問員認定講習 2) 見守り訪問活動の進捗管理 3) 訪問員フォローアップ研修の企画・実践 4) 歳末ふれあい福祉事業の企画・実践	・認定講習 5名受講 ・2023年度見守り訪問員20名、対象者30名 見守り回数 延322回/12月末 ・歳末ふれあい福祉事業 昨年同様見守り時に海苔の配布 見守り利用者(26名) 見守り新規勧誘(4名) ⇒ 4名新規申請あり	★4/23認定講習 ← 各町会訪問員単位で見守り訪問活動 →				★7/9歳末ふれあい福祉事業企画検討 ★10/22推進委員会→歳末ふれあい福祉事業承認 ★歳末ふれあい福祉事業申請 ★配布用海苔の手配			★12/10フォローアップ研修及びふれあい福祉事業展開				
IV.地域活性化事業	◇海上地区では各町会の自立した取組みを集いの場と改称 地域活性化施策の一環と位置づけ地域の絆を強める取組みとして推進して行く ◇地域住民のニーズの検討 具体化に取組む	1) 各町会ごとに実施する集いの場はネットワーク事業の延長戦上の取組みとして、予算化も含め具体化を図る 2) 買物支援施策の具体化、ニーズの検討 3) 町会単位で地域ニーズを検討する会議を推進する	・集いの場⇒開催無し サロン活動推進⇒進展無し ・買物ツアーの試行実施 3名申請あり検討開始 2/20～毎月第3火曜日13時より「しげのや」へ実施。 ・会議開催⇒4件申請あり	← 原則月1回の開催で町会単位で計画。実施 ⇒ 開催無し → ← ニーズに対応した具体化を検討推進する → ← 町会単位でNW会議を推進 →						★★実施申請		★実施申請		★実施申請	

取組事業の主旨		23年度計画	23年度実績	計画 & 実績											
推進事業	事業内容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇ ネットワークを構成する地区14町会と連携し、小域圏における地域福祉事業を促進する。 ◇ 具体的な地域福祉事業は、児童・高齢者の見守り活動を基軸とし、以下、4点を事業の枢軸とする	1) 地域住民への福祉に資する諸施策の企画・立案・推進 ① 小学校との連携協議 ② 役員会の運営 ③ 推進委員会適宜開催	1) 各事業の推進に向け、以下の会議体を運営する。 ① 小学校との連携協議 ② 役員会(5回/年) ③ 推進委員会(11回/年)	* 計画の①②③共に右実績に示すよう実施した。	役員会計画→ 推進委員会 計画↓ ★4/23 →		★6/12 役員会			★9/11 役員会			★12/11 役員会		★2/5 ★	3/4 役員会
I. 児童福祉事業	◇ 学区である光風台小学校と連携した児童福祉施策の推進。 ◇ 校庭の美化運動	1) 児童登校見守りを月次ペースで実施する。 2) 学校・PTAと連携し、環境美化作業に取り組む。	計画通り実施済み 1)全登校日の下校時の見守り実施 2)校庭の美化活動(草刈り)実施												
II. 地域福祉事業	1) 医療・緊急カードの常備推進 2) 福祉講座の開催	1) 携帯型緊急連絡カードの全世界帯家族分の配布 2) 福祉講座「SDGsについて」の環境講座を計画	計画通り実施済み 1)携帯型緊急連絡カードを全世界帯に家族数を配布 2)「SDGs研修」実施												
III. 高齢者福祉事業	1) 通いの場事業「光風台ふれあいサロン」の支援 2) 通いの場事業「丘の上サロン」の支援 3) クリスマス菓子の宅配 4) 買い物支援「買い物ツアー」の実施	1) 「光風台ふれあいサロン」月に4回程度光風台自治会館で軽い体操・筋トレ・脳トレ等を実施。 2) 「丘の上サロン」月に4回程度百合ヶ丘公民館で軽い体操・筋トレ・脳トレ等を実施。 3) 年末に担当民生委員が、「クリスマス菓子」と光風台小児童が作成した「クリスマスカード」を高齢者に宅配する。 4) 買い物弱者のため、「光風台～しげのや」の間で「ケアハウス向日葵」提供のワゴン車を利用する。	1)「光風台ふれあいサロン」計画通り開催 2)「丘の上サロン」計画通り開催 3)「クリスマス菓子」と光風台小学校のクリスマスカード」「双葉中学校の励ましカード」宅配 4) 買物ツアー予定通り実施												
IV. 地域活性化事業	1) 広報紙「あったか福祉光風台」の発行 2) 光風台団地内の迷惑駐車追放運動の実施 3) 移動販売「ふれあい便」 4) 秋季フリーマーケット開催	1) 広報紙「あったか福祉光風台」21号、22号の発行 2) 迷惑路上駐車を無くするため、チラシ、ポスター等を作成し、啓発に務める。 3) 「移動販売車」の運行を継続 4) 秋期フリーマーケットを開催	1) 広報紙「あったか福祉光風台」21号・22号の発行 2) 10月に「迷惑路上駐車追放運動」(ポスターの掲示、回覧)実施 3) 毎週月曜日の午後「移動販売車の運行」 4) 10/1「フリーマーケット」実施(参加者役120名) 5) 「光風台小学校区 地区防災計画」の策定												